

# PHD LETTER

## 105

2007.12

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- 夏のスタディツアー報告 インドネシア・ビルマ
- 研修生レポート&国内研修生座談会
- 同じ買うなら、使うなら「オーガニックコットン 長袖Tシャツ」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行： 財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人： 藤野 達也  
住所： 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp  
URL: http://www.kisweb.ne.jp/phd  
定 価： 100円  
郵便振替口座： 財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688



タイ チェンマイ県ムシキー 撮影：FUJINO T.

おいしいかぼちゃがいっぱい穫れたのはうれしいんだけど  
売る先に困っています。  
町までは車で半日かかるし、ガソリン代は高いし、どうしよう。  
高い日本の種を買って、作ったんだから、  
できたかぼちゃも日本に送れたらいいのに。

東西南北  
問題解決  
取組日記

スマトラの人選は  
2度目の希望者

今年の夏に訪ねた地域に、帰国後事件が相次いだ。8月下旬に訪ねたインドネシア、西スマトラには9月12日にまた地震が起こった。地震の翌日、研修生の村に連絡をとると、何軒かの家は壊れたが、ケガ人はでなかったとのことで、安心した。

一方9月初めに訪ねたビルマではご存知のように反軍政のデモが起きた。研修生の村には直接の影響はなかったが、憂うべき事態となってしまった。今回はひとまず終息したかにみえるが、市民の不満のものが解消されて、おさまったわけではない。今後も流血沙汰なく多くのビルマの人々にとっていい方向に行くことを願うばかりだ。私たちはここ数年、研修生をビルマから引き続けている。研修生を迎え、出会い、支えてくださる皆さんが研修生を通じてビルマのことをずっと気にかけてくださることが、また何かの力になることと思う。

スマトラでは08年度の研修生に、今年に続いてシランジャイ村から、ベリスマンさんを選んだ。昨年の面接にも参加し、結果は次点だったが、今回の面接では日本での研修に対しより強い思いをもってることが伝わってきて、立ちあつた元研修生のみんなの賛成もあり、決定した。



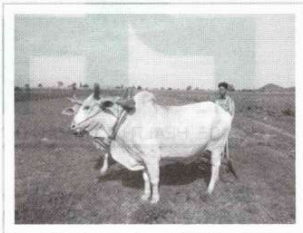
ビルマは新しい村からの  
選考に

例年7月に訪問していたビルマに、今年は9月初めにでかけた。過去、パスポートを手に入れるのに時間がかかり、そのために早めの研修生決定が必要であった。しかし最近では以前の半分くらいの期間で入手できるようになっていたため、ツアーの参加者が増えることも期待して9月の訪問としてみた。

ビルマではこれまでにマンダレー郊外の農村タダインシェとそこから南へ数キロ離れたイエボから研修生を招いてきた。現在、村の外にいる人も一部いるが、それぞれ4、5人の数となったため、昨年の選考時に、次は第3の地域への拡大をと相談していた。それに比べ、今回はムームーさん（93年度研修生）の夫が小学校の校長先生を務める地域で準備がすすめられていた。中心の村はミンガンといい、タダインシェ村から車で北に1時間程行った農村である。7月中旬にトゥンティンさん（93年）が、まず下見を行った。8月中旬に再度訪問し、ミンガン村に住む隣村シンブジーの校長先生とその妻で診療所の看護師のお二人に相談をし、周辺の村の青年に声をかけてもらった。その上で8月下旬にテーさん（05年）、スヌーさん（06年）、スウェウィンさん（02年）と出かけ、説明会を実施し、候補者を募っておいでくれた。

初めての村ということで選考は2日におつた。集まったのは5つの村からの8人、男性7、女性1。診療所の部屋を借り、初日は全体説明と個別の面接を行った。終了後、元研修生もまじえ、協議し、3人に絞りこんだ。翌日はその3人の村と家庭を訪問。ミンガン村までは車で行けるが、周辺の村へは道が悪いので、バイクに同乗してでかける。村を歩き、家族と話した。昼をはさんで再度協議の結果、シンブジー村のポーポーハンさんを選んだ。覚えやすい名前だが、有名な歌手の名前と同じだそう。選考にあたっては候補者の熱心さも印象的だったが、元研修生6人が同席して、いい人を選ぼうとしてく

れたことがうれしかった。



産業発展に伴うもの

今回のビルマへの旅には03年の国内研修生で、今は水俣病患者を支援する団体の職員さんが参加した。昨年度の研修生スヌーさんが水俣を訪ねた際に、村の川の汚染について相談していた。そこで今回現地にて調べ、調べてもらうことになった。はじめに予定していた川は上流にある化粧品工場が稼働していなかったため、さほど問題はなかった。しかしもうひとつ行ったところは、酒の工場の汚水がそのまま流れでて、強烈な悪臭を放っていた。たぶん何の処理もされないまま農業用水路に流されているのだろう。現地へいくつかの試薬を使い検査もしたが、汚すぎるのか、測りきれない。詳しくはもちかえったデータから分析してもらったことになった。地域の人も悪臭から、いいものとは思っていないだろうが、そのもたらす影響についての知識は十分ではないだろうし、ましてや工場側からの説明もあるまい。



改善のためには、まずは地域の人々に問題として意識してもらうことが必要だろう。そこに水俣をはじめとする研修生の日本での社会学習の経験が生きえらうらしい。

総理事代行 藤野達也

夏のスタディツアー報告  
インドネシア編

8月22日～31日

この夏11名でインドネシアに行った。目的は次年度の研修生の選考、戻った研修生のフォローアップ。現地で会えた研修生の数は12人。情報収集だけでもかなりの時間が要った。まずはソロ郡の山の村。4日間滞在し、海の村。バシルバルーには2日間滞在した。山の村では、昨年の研修生ブットラさんが、日本で勉強した本を片手に試行錯誤しながら学んだことを実践し、アルウィーさん（01年）とマスラルさん（05年）が村の人たちと灌漑整備に取り組んでいるなど、日本での研修が少しずつではあっても確実に根を張っていることが実感できた。また同じ女性として、女性の帰国後の活動に非常に興味があった。エリさん（03年）、ミミさん（02

年）のポシアンドウ（コミュニティ単位で地域住民の健康を担うプログラム）、PKK（女性の活動組織）の活動がジャカルタで表彰されるとのこと。ポシアンドウを見学した時も建物に入りきらない程の母子の数に驚いた。葉も途中で足りなくなり、町まで取りに行く程だった。エリさん、ミミさんは2人で協力しながら、他の村にも指導していると聞き、心強く感じた。バシルバルーではヤニさん（92年）のお宅に滞在した。5人目の子どもがあと数日で産まれるという大変な時期に受入れていただいた。ヤニさんは現在日本語を2つの高校で教えている。しかし日本語教師を目指す学生がぞくぞくと大学を卒業しているため、この先自分が継続して教えていくことはできないかもしれないということだった。また、野菜の値段が非常に不安定で、例えば人参の値段が昨年2500ルピア（約32円）/kg程だったもの

が、今年は倍以上の6000ルピア、セロリは3倍の9000ルピア。日本で栄養の勉強をしたものの、野菜を買わなければいけない漁村では、野菜の値段に振り回されてバランスの取れた食生活を実践するのは難しいとのことだった。

研修生たちから聞いた帰国後のことを、私たちが今後どう支えていくべきか、難しいことだと思うが、考えていきたい。

三輪望



ポシアンドウに集まったお母さんと子ども



インドネシア

参加者の声



建設中のアフリタさんが数える幼稚園の前で

ソロ郡

アルウィーさん(01年度)

昨年虫で唐辛子がやられたため、今年、村のみんなは栽培をやめた。そこに堆肥をたくさん入れた畑であえて栽培。農業少々で大成功。

アフリタさん(04年度)

カニジャングイ村で幼稚園を始めて4ヶ月目。新しい建物を建設中で役場に助成金を申請する予定。

ブットラさん(06年度)

牛を1頭購入。肥料は草やバナナの茎から作っている。唐辛子は病気のため今年是不作。

バシルバルー村

アリ・ムルティムさん(87年度)

漁業協同組合の経理監査や共済、製氷工場での仕事は順調。11月、村に市場を作る予定。

サムスアリスさん(90年度)

11月に2人の子どもが結婚。結婚費用が要るので大変。同居の実子5人と親せきの子どもを預り育てている。



左からアルウィーさん、ダスウィルさん、マスラルさん、ブットラさん、アフダールさん



アフリタさんとエリさん



アリ・ムルティムさん、サムスアリスさん



夏のスタディツアー報告

ビルマ編

9月4日~11日

今夏のビルマスタディツアーは、日程を少しずらして9月上旬に行った。夏休み中だったことから久しぶりに学生の申し込みもあり、参加者5名、職員2名の計7名でビルマに向け出発。

9月のビルマは雨季にあたり、例年の訪問時期の7月に比べ少し暑さも和らぎ、涼しいときは30℃くらい。マンゴーの収穫も終わった後、今年はタダインシェ村1日、イエボ村1日、そして来年度から新しく研修生を招くことになったシンプヂー村周辺に2日という日程で村での行動日程を組み、帰国研修生のフォローアップと次年度研修生の選考を中心にやってきた。

タダインシェ村では、まずは来日中のティダさんの実家に招かれ、ビルマ特有のおもてなしを受けた。イエボ村からも研修生が早速駆けつけてくれ、ポリユー

ムたっぷりのデザートをいただき一息ついたところでティダさんの日本での研修の様子を報告した。

タダインシェ村、イエボ村での2日間は村を散策しながら帰国した研修生の近況を伺い、ここ1年間の活動のフォローアップを行った。活動の成果として目に見える形で現れていたのは、やはり農業だった。日本の研修で学んだことをできることから実践し、少しずつ成果をあげている。トゥンティンさん(93年)曰く、「今まで長年続けてきたスタイルを変えるのは難しいこと。でも、正しいと信じたことは実践しないと結果も出ない。」。トゥンティンさんを中心とした農業面での取り組みが今後も楽しみです。

農業以外の面でも、村の生活を改善していくために研修生たちは頑張っていた。

新しい学校建設のための募金集め、幼稚園の運営資金を得るための手編みのマフラーの販売。公にグループ活動が出来ない環境下で、自分たちが出来る範囲で努

力している様子が伺え、他の国で頑張っている研修生たちにも励ましとなる報告ができそうだ。

今回のツアーは、参加者の中に栄養の先生がおられたので、栄養面からも村の生活状況を観察しアドバイスをいただくこともでき、日本での研修を考えるうえで有益な情報を得ることもできた。今年は研修生から農業に関する日本での調査を2点リクエストされたので、今後調べたことを報告していきたい。

高垣隆博



村の学校を案内してくれるトゥンティンさん



オーガニック(有機)は、食べ物だけじゃありません。着るものを選ぶ時、買う時、その素材がどこから来て、どんな過程でできているか考えたことはありますか? コットン(綿)は天然素材として、環境にやさしいイメージがありますが、一般的な栽培、製品化には、農薬、化学薬品が使われ、畑で働く人や周辺の環境にも被害が出ている事実があります。そこで、オーガニックコットンを扱う東京のお店「green tee」を通じ、インドの地で、自然の力だけで栽培した素材で作った長袖Tシャツを130枚限定で仕入れました。お肌の弱い方にも安心して着て頂けます。作る人にやさしい、着る人にやさしい、土、水、空気にやさしい「オーガニック長袖Tシャツ」。着ているものからも世界を考えることができます。この1枚のTシャツからその一歩! 色は紺の一色。後ろの襟元にPHDのロゴが小さく入っています。XS, S, M, Lの4サイズで2,800円。

タダインシェ村

トゥンティンさん(93年度)

日本で学んだ米の疎植や有機農法について村人の間には随分理解も広まり、現在はヤンゴンまで技術指導に出かけることも。今は村の小学校建て替えに伴い仲間と共に奔走中。

タウンティンテーさん(05年度)

めでたく2月に結婚した奥さんと、今は村のウィンさん(92年)の家を借りて住んでおり、奥さんのお腹には既に赤ちゃんも。農業のほうも日本で学んだことを少しずつ実践し、今は主に自然農薬(EM菌)について取り組んでいる。

スーティンさん(06年度)

帰国後は来日前にボランティアをしていた小学校に復帰し、今は3年生の先生。先生が以前に比べ増えたため、今後は別の学校に移ることも考えている。私塾でも2名の子供を教えている。

イエボ村

ケンターウエさん(03年度)

学校の先生になるのは思った以上に難しいのか、現在は村から車で10分ほどのところにある薬科大学で3ヶ月ほど前から事務職の仕事に。

ゾーウィンさん(04年度)

5月に結婚し、幸せいっぱいのゾーウィンさん。他の研修生同様、今はEM菌に取り組み、結果も少しずつ表れてきた。家の裏の広い畑は今年がバナナを栽培中。



左からトゥンティンさん、ゾーウィンさん、トゥンティンさん、タウンティンテーさん、スーティンさん、スーティンさん、ケンターウエさん

啓光学園交流会



- 8月9、10日 JICA兵庫 多文化共生のための開発教育・国際理解教育セミナー
- 8月18日 岡山県国際交流協会「国際貢献ボランティア養成講座」
- 8月22日~31日 インドネシア・スタディツアー
- 8月25日 篠山愛の縁日 バザー
- 8月26日 農業体験 加古川で芋掘り
- 9月4日~11日 ビルマ・スタディツアー
- 9月13、14、18、19日 関西国際大学講義
- 9月20日 帝塚山学院大学講義
- 9月22日 共栄学園高校文化祭講演
- 9月29日 啓光学園中学校高等学校交流会
- 10月6日、13日 つかしん「タイランドフェア」
- 10月9日 飛騨友の会交流会
- 10月10日 ソロプチニスト高山交流会
- 10月13日 神戸シルバークレッジ学園祭 バザー
- 10月17日 コープこうべ桃山台レインボースクール
- 10月19日 加古川老人大学OB講演会

3回目を迎えた今回は生徒と研修生が一番近くなった啓光学園中学校高等学校(大阪・枚方市)での交流会でした。1限目は270人を前に3人の研修生がスライドで村の様子を説明。3つに分かれての2限目は、質疑応答のあと文化、生活を紹介しました。ティダさんは生徒に木の皮を使ったビルマのお化粧「タナカー」を塗り、ヘルマさんは西スマトラの伝統舞踊を、チャニューさんはギター弾き語りを披露。3人のパフォーマンスが輝く1日でした。

篠山愛の縁日

兵庫県篠山市で毎夏行われる行事に、PHDの協力団体「篠山ナマステ会」の皆さんからバザーのお誘いを受け、一面に出展しました。ささやま保育園で研修中のティダさんとインター生生の吉元さんも参加。ティダさんは、日本の夏のお祭りを楽しみ、ご満悦。美味しいものもお腹いっぱい食べた夏の夜でした。

農業体験 芋掘り

まだ陽射しが真夏だった8月26日の日曜日、加古川の丸山悦司さん・陽子さんの畑で催された農業体験に家族で参加しました。初対面の私をはじめ、参加者全員を底抜けの包容力で受け入れてくださった丸山さんご夫婦からホンモノの芋掘りを教えていただきました。さつま芋は有機栽培された鳴門さんとき。掘ったそのお芋の味は「もう私お芋だけあればいいの♪」レベルの横綱級。当日は最高潮に暑く、流汗を流しながら掘っていたら陽子さんが最高潮に冷えたスイカを出してくれた。このスイカも有機栽培。やはり最高潮においしい。なんだろう?有機栽培だと体中でおいしいと感じるこの感じ。有機栽培とは、化学肥料や化学農薬を使わず有機物のみを用い、かつ栽培から消費までが食物連鎖的に繰り返され続けている栽培手法のこと。つまりそこに小さな生態系が成立してるとってことで、一過性でなく永く農業を続けるにはこれでなければならぬわけですね。畑を単に場としか考えず畑自体を健康に保たないという栽培は破綻してしまいます。有機栽培って人が健康な地球と共に生きていく為に昔の人々がずっと守ってきた方法なんですね。自国でこの方法を広めてくれる研修生を誇りに思った農業体験でした。

野崎敏宏(会社員・神戸市)

インターンを通して

今年も8月、9月にそれぞれ2週間、インターン生を受入れました。神戸学院大学3回生の松井さんと佛教大学3回生の吉元さんです。お二人の感想を紹介します。



タイのカレンの女性たちの活動を紹介する準備をする松井さん(左)

このインターンで沢山のことを学んだ。PHD協会は主に国際協力をしているのかと思っていたがとても幅広い活動をしている。海外からの研修生は教える事ばかりではなく自分達が教わる事もたくさんあるらしい。私も実際少しい時間だが研修生と話してみても日本人がいかに贅沢な生活をしているのかがわかった。アジア諸国で最もエネルギーを消費し、資源の無駄使いをしているのは日本だ。それを理解し、何とかしなくては私達は思わなくてはならない。今までは何も考えずに生活していて、そんな話を聞いて自分には関係ないと思っていたが、ここ2週間お世話になり、研修生と話し、自分ができることは何かと考えるようになった。

社会勉強だけではなく、ボランティアやアジアと日本の関わりについて考える事ができ本当にいい経験になった。(吉元あゆみ)

援助や支援と言われると、先進国が途上国に行くこと、というイメージが僕の中では強かった。しかし、貧困を生み出しているのは、先進国であり、私たちでもある。日本という経済大国に埋もれ育った私たちは、日本の豊かな生活が当たり前で、「普通だ」と感じてしまう。しかし、自らの生活を見つめると、無駄にする事や必要以上のぜいたくをしている。物を大切にしたり、エネルギーを少しでも減らすぐらいのことは、身近でできる事だと思う。日本で行える国際協力はたくさんあるんだと気づいた。(松井吉雄)

# PHD NEWS

## ◆会費・ご寄附寄託状況

2007年 8月 99件 ¥ 928,180

9月 62件 ¥1,886,404

161件 ¥2,814,584

上記の通り、多くの皆様よりご浄財を賜りました。心より御礼申し上げます。今年も年末募金の時期を迎えます。PHD活動の更なる推進のために、引き続きのあたたかいご支援をお願いいたします。

## ◆一緒に会報を作ってみませんか？

会報の企画や編集を下さるボランティアを募集しています。研修先やイベントに取材に行き、記事を書きます。是非PHDを皆さんの目を通して紹介してください。担当三輪までご一報を。

## ◆タイの子どもたちの絵をご活用ください



10月初旬に尼崎市にあるショッピングモール「つかしん」で行われた「タイランド・フェア」に参加しました。日本にいながらタイを満喫できる催しで、カレンの草木染布を販売しました。また88年のタイの研修生ワラヤさんが教える小学校の子どもたちの描いた絵を展示しました。絵はそれぞれタイの日常が鮮やかに描かれています。フェア終了後はこの絵を貸し出ししています。A3サイズで30枚あります。お問い合わせ

## 編・集・後・記

猪突猛進の年もあったという間に11月を迎えてしまった。いつもこの時期になると、この1年、充実した時間をもてたかを自問する。そしていつも流されてしまった自分にあきれられる。でも今年はず。PHD協会に出入りを許されて10ヶ月。いろんな刺激があった。若い人たちがイキイキと楽しく、ごく日常のこととしてボランティアをしている。異国の地から3名の留学生がこの難しい日本語をいとも簡単にクリアし、飢えた大地に水がしみ込むように

## 第26期生 ホストファミリーを募集します。



ボーボーハンさん

ビルマ・23才・男性



ペリスマンさん

インドネシア・26才・男性



スラデさん

タイ・45才・男性

期間 2008年4月から1年間。来日後最初の6週間は毎日、以降、月平均7日程度。

希望滞在場所 神戸三宮まで1時間程度で通える範囲。

お礼 当会規定による食費、滞在費をお支払いします。

してください。

## ◆ロータスクーポンが図書カードへ

今までに皆さまからいただいたロータスクーポンが図書カード56,500円分に交換できました。研修を補う本や日本語のテキスト購入など、有効に活用させていただきます。ご協力ありがとうございます。

## ◆年賀状書きの季節です

年末年始のごあいさつに是非PHDのハガキをご利用ください。アジア・南太平洋の子どもたちの写真 8枚一組500円で販売中です。ご注文は電話、ファックス、Emailで受け付けています。またもし書き損じた官製の年賀状がでてしまったときはPHDにお送りください。新しい切手と交換し、日々の郵送代として活用させていただきます。

## ◆すみません、訂正です

PHD LETTER103号の表紙写真の撮影地表記はヤンゴンではなくマンダレーでした。お詫びし、訂正します。

すべてを吸収している。嫌なこと、絶望的なことはかりの世の中にあって、この世界は別天地か。"幸福とは共に生きる社会"とナチスから命からがら米国に渡った作家が言ったという。名実とも共に生きる社会の一員になりたいと切に思う。来年はどんな年になるのだろうか。いいも悪いも本人次第。厳しく自分を見つめたい。

(3月よりボランティアをしている初老人のつぶやき)

制作協力：増本一朗 松本"顧問"直樹 坂井時和

## ○月×日のPHD協会

国内研修生 酒井 バザーの売子に初出勤。ネパールの研修生のセーター大人気にてんてこ舞い。南極ツアーに参加するお客さんのご購入にびっくり。

職員 三輪 某日某所でのフェアに出展。秋の日の夕方は風も吹いて、けっこう寒い。お客さんが来ないから、さらに寒い。風邪ひかないように帰ろう。

職員 川原 関西NGO大学に参加。貿易ゲームの最中に資源として配られた紙が他班による盗難にあい、ゲームとはいえ、これはひどいと大憤慨。

職員 高垣 島根に出かけるチャユさんと神戸駅で待合せ。うまく出会えず予定のバスに間に合わないことに。慣れてきた頃、たまにこんなことが。

職員 藤野 久々のテレビ取材。ロケ先での収録映像を見ながら司会者とお話し。ゲストの大桃美代子さんの隣にすわって、ちょっとどきどき。

職員 佐々木 チャユさんとロータリークラブの卓話に。プロジェクターで村の様子を紹介予定が機械不調で映らず。秋なのに、いつもの百倍の発汗。

(物事に動じない順)

-再生紙を使用しています。